

## 平成 28 年度黒部市歴史民俗資料館「春の展示」

主催 黒部市歴史民俗資料館  
会期 平成 28 年 4 月 1 日～5 月 8 日  
会場 黒部市歴史民俗資料館（うなづき友学館） 富山県黒部市宇奈月町下立 683 番地



### ●常設展示室

愛本刎橋を 1 / 2 に復元した橋の姿を見ることができます。

### ○愛本刎橋

黒部川に架かる愛本刎橋は、山口県岩国市の錦川に架かる錦帯橋、山梨県大月市の桂川に架かる猿橋と共にその構造が変わっていて姿が珍しいので、「日本三奇橋」と呼ばれました。加賀藩を始め、大聖寺藩、富山藩の参勤交代の行列や文人墨客、旅人など、多くの人々がこの橋を往来しました。



愛本刎橋

### ●展示収蔵室

初代藩主前田利家の印判状、松儀家所蔵の三代藩主前田利常からの拝領品（鏡・硯・扇子箱）の展示。

### ○「埋納銭と壺」黒部市宇奈月町明日出土

宇奈月町明日から、大正 2 年（1913）に個人の敷地を開墾中に偶然発見されました。越前焼の壺の中に 1 万 2 千枚を超える銭貨が収められ、口の部分に素焼きの皿で蓋をしていました。銅銭でもっとも古い開元通宝（唐 621 年初鑄）です。

埋蔵時期は、壺の制作年代と最新銭の鑄造年代から

16 世紀初頭（室町時代後期）と考えられます。この埋納銭が発見された場所は、明日山法福寺（真言宗）の宿坊があったと推定される場所です。



埋納銭と壺



明日出土の越前焼と埋納銭

### ○「古伊万里の絵皿」(4 点)

この古伊万里は能登半島沖の海底からカニかごを引き上げた時に中に入っていたものです。絵皿は約 21cm あり、白地に青で鳥や樹木が描かれています。

古伊万里は江戸時代 17 世紀後半に九州地方で作られたもので、西回り航路の船により東北地方へ運ばれる途中に海底に沈んだものと考えられます。



古伊万里の絵皿



○「元文一分金」8枚 黒部市北堀切遺跡出土

「元文一分金」は江戸時代の長方形の金貨です。貨幣価値は小判1両の4分の1にあたり、「一分判金」、「一分小判」、「小粒」、単に「一分」ともよばれました。小判の通用を補助する目的で発行さ、小判の改鑄に伴って一分金も改鑄されています。小判は慶長6年(1601)から万延1年(1860)まで10度にわたり改鑄が繰り返されました。大きさは長さ約1.7cm、幅約1cm、重さ3.27gあります。



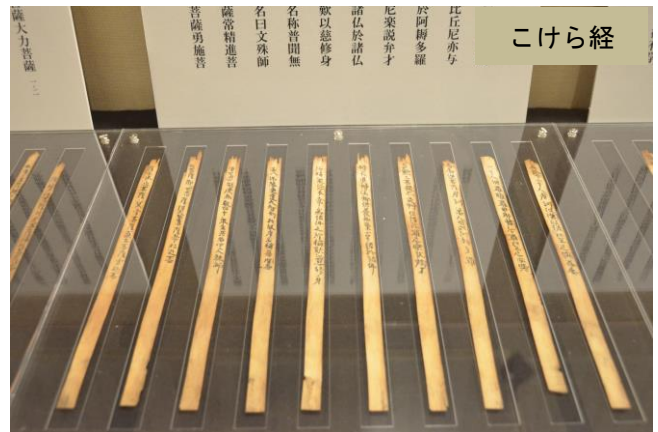
一分金

○「こけら経」黒部市堀切遺跡出土

堀切遺跡出土のこけら経は經典によって大きさが異なっています。法華経は長さ29~30cm、幅0.9~1.0cm、厚さ0.02~0.04cmあり、理趣経は長さ17~22cm、幅1.0~1.4cm、厚さ0.01~0.04cmです。

一般的にこけら経は、経文を1行ずつ薄い板に写経したもので、平安時代後期から江戸時代にかけて、死者への追善供養や自身の死後安楽を願うために作られたものです。法華経は仏教の重要な經典の一つで、第1巻~8巻までであり序品から普賢菩薩勸発品の28品からなっています。1巻が500行ほどあり、全文で4,088行69,384文字の経です。古くから法華信仰が繁栄し、法華経の經典の流布だけでなく、成仏、善根、功德の思想に基づいて写経されるようになりました。平安時代末から鎌倉時代に作られた春日版の法華経が代表的なもので、堀切遺跡出土の法華経は、時代的

にもこの春日版を使用していると思われます。



●ギャラリー

○「ヤモリの姿のある土器」

黒部市宇奈月町愛本新遺跡出土

愛本新遺跡は、大正時代に発見された縄文時代中期から後期にかけての約2haに及ぶ大遺跡です。昭和45年に農業構造改善事業に伴い発掘調査が行われ、後期の住居跡や集石遺構などが発見されました。



愛本新遺跡

数多く出土した中期前半の深鉢形土器の1つに3本指をもち、4つ足で尾が長く、丸い鼻孔、顔を少し持ち上げた姿のヤモリのような動物を口の部分に取り付けた造形が見られます。

○「引湯管」黒部市宇奈月温泉出土

宇奈月温泉木管事件判決文(民法第1条第3項権利の濫用の禁止)

